

[サンチャ]

# SANCHA

Mar.2019  
vol.01

日本大学 三軒茶屋キャンパス 広報誌

危機管理学部

[サンチャ]

# SANCHA

Mar.2019  
vol.01

日本大学 三軒茶屋キャンパス 広報誌

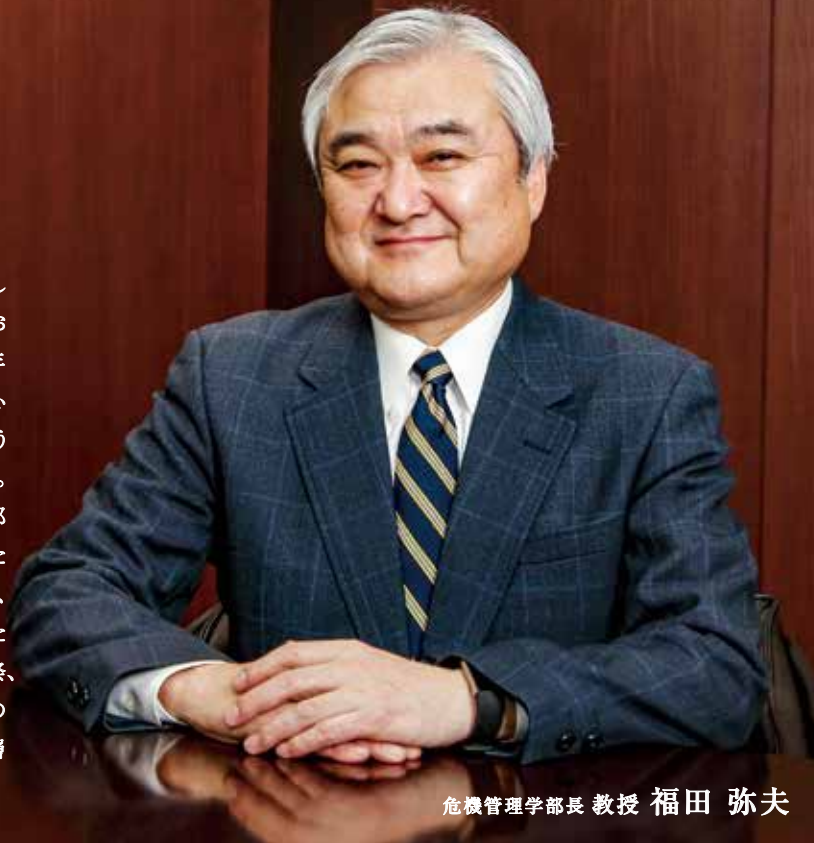
スポーツ科学部



# MESSAGE from DEAN of RM

## 保護者の皆様へ

平素は危機管理学部の教育にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、三軒茶屋キャンパスにおける学生生活の一端をお伝える広報誌「SANCHA」(サンチャ)を刊行いたしました。概ね半年ごとに号を重ねる予定ですが、まずは今号から3回にわたって、学びの中心として、3年次以降すべての学部生が参加し、危機管理学の視座を養うための演習科目であるゼミナールと特殊研究を紹介させていただきます。小さな写真の中に御子女の笑顔が見つかるかもしれません。また本学部1期生である新4年生の就職活動も本番を迎えます。教職員一丸となった就職支援について、その内容をご確認ください。「理想の自分」を求め、道を切り開こうと頑張る学生たちを最後までしっかりとサポートさせていただきます。このほか、学生たちが連日夜遅くまで準備した昨年秋の三茶祭、夏季休暇中に汗した日本大学体育大会での活躍ぶりなど盛りだくさんの内容をお知らせいたします。ご高覧いただき、今後とも本学部に対し一層のご理解をいただければ幸いです。



危機管理学部長 教授 福田 弥夫

## 特殊研究 勝股 秀通 研究室

過去を学び、今を知り、そして明日を探る



**担当教員**  
教授 勝股 秀通

**専門 / 経歴**  
防衛問題  
報道と広報

- 1983年読売新聞社入社、解説部長、論説・編集委員を務める
- 2015年 本学教授に就任

新聞記者として32年。政官財を揺るがした疑獄事件、阪神および東日本をはじめとする自然災害、自衛隊の海外活動等の取材を通じて培った現場感覚を、ゼミ生と共有しています。日本で、世界で、いま何が起き、これからどうなっていくのか。メディアが伝える時代の風を敏感に感じ取りながら、「明日の危機」とは何かを一緒に考え、研究しています。

## 小谷 賢 ゼミナール

競争力と継続力、積極性の涵養が目標!



**担当教員**  
教授 小谷 賢

**専門 / 経歴**  
国際政治学

- 防衛省防衛研究所主任研究官、英国王立安全保障問題研究所客員研究員、青山学院大学講師を歴任
- 2016年 本学教授に就任

当ゼミではグローバル領域に関わる議題をテーマにしています。2018年度は共通課題として北朝鮮問題を設定し、ゼミ生は共同リサーチを行いました。7月のオープンゼミでは「北朝鮮問題を考える」として、100名を越える一般聴衆の前で報告と議論を実施しました。また11月の三茶祭でも同じテーマで、より深く研究した内容を展示物として発表しました。

# RM Seminar File

危機管理学部 ゼミナール/研究室の紹介①

危機管理学部には、様々な見地から危機管理に関する特殊研究や実務教育を行う28の研究室およびゼミナールがあります。少人数の学生と教員が密接に関わりながら行う実践的な演習を通じて、将来的な危機管理の現場においても確かな調整力・交渉力を発揮できる人材の育成を目指しています。

## 特殊研究 木下 誠也 研究室

災害を理解してリスクを最小化する災害マネジメント



**担当教員**  
教授 木下 誠也

**専門 / 経歴**  
防災・危機管理と建設マネジメント

- 元国土省 近畿地方整備局長
- 国土省 審議会専門委員等を歴任
- 土木学会 建設マネジメント委員長
- 2014年 本学教授に就任

グループ共同で災害の原因、事前の取り組み状況、発生後の対応と被害の実態などを学修し、被害防止・軽減策、災害対処策、復旧・復興の方策等について課題研究を行っています。実地学修として、常総水害の現場を見て鬼怒川の治水その他の災害防止策についてヒアリングしました。ゼミ生各自がテーマを設定して卒業研究をとりまとめます。

## 特殊研究 安部川 元伸 研究室

凄惨なテロから自分自身の生命を守るための研究



**担当教員**  
教授 安部川 元伸

**専門 / 経歴**  
国際テロリズム論

- 1976年公安調査庁入庁、国際テロ関連業務に従事
- 2015年 本学教授に就任

安部川研究室では、過去に発生した国際テロ事件の背景、手口等を徹底分析し、テロからいかにして自身の生命を守るかを研究しています。授業では、テロ対策に関わる施設等の見学や、セキュリティの専門家による特別講義も実施しています。受講生は、自らの進路を考慮しつつ専門性を磨き、三茶祭開催中の研究発表、ゼミ論文の作成等を研究成果としています。

## 工藤 聡一 ゼミナール

空の法律—国際航空法を通して社会をみつめる



**担当教員**  
教授 工藤 聡一

**専門 / 経歴**  
商法  
航空法  
信託法専攻

- 日本大学法学部教授を経て、日本大学危機管理学部教授
- 日本大学大学院法学研究科教授

航空は私たちの生活を変化させています。LCC(格安航空会社)がバス代と同じくらいの低価格で飛ぶようになり、私たちの余暇充実に繋がっています。メディアを賑わすことの多いドローンも、空間利用の新しい形です。これら多彩な航空の実態を空港やドローン開発の現場に足を運び、根拠となるルールと重ね合わせながら多面的に考察し、社会をみつめる力を養います。

## 永沼 淳子 ゼミナール

研究では日常生活のリスクを、ゼミ運営では協力を学ぶ



**担当教員**  
准教授 永沼 淳子

**専門 / 経歴**  
民法  
債権法  
家族法  
■元不動産会社経営

第1期生3年次のゼミは、研究面では各自が卒論のテーマを決定し、文献収集とレジュメ作成による中間報告を行いました。学生たちが選んだテーマは、民法の代表的な論点を中心に据えながら、DVや空き家等、現代社会が抱える問題も取り上げています。活動面では、親睦会やゼミ合宿等の行事を、ゼミ長が中心になって全員で協力して実施しました。

# RM Seminar File

## 福田 弥夫ゼミナール

大規模自然災害とリスクファイナンス



**担当教員**  
教授 福田 弥夫

**専門 / 経歴**  
損害保険法  
■前日本保険学会理事長  
■前金融庁「自動車損害賠償責任保険審議会」委員  
■国土交通省「自動運転における損害賠償責任に関する研究会」委員  
■日本大学法学部教授を経て、2016年から危機管理学部長

保険を中心とするリスクファイナンスは、危機管理の中でも重要な役割を果たしています。保険の基本を学んだあと、東京学生保険学ゼミナール年次大会(東京の7大学)での報告テーマを決め、グループワークを中心に取り組みます。今年のテーマは「災害大国日本における保険の考察」でした。全員参加で活発な議論が自慢のゼミです。

## 鈴木 秀洋ゼミナール

個々人の「笑顔」のための法制度設計を〜多様性の尊重



**担当教員**  
准教授 鈴木 秀洋

**専門 / 経歴**  
行政法・地方自治法、災害弱者DV・児童虐待・ストーカー  
■東京23区法務部  
■文京区危機管理課長  
■男女協働課長  
■子ども家庭支援センター所長  
■厚労省・東京都等審議会委員  
■日本公法学会・憲法学会  
■日本子ども虐待防止学会

- ①様々な現在進行形の社会問題・身近な問題を扱う。
- ②住民側・行政側・裁判官だったらと多角的視野を養う。
- ③当事者意識を持てるようゲストを呼び、現場にも行く。
- ④人生の土台・哲学・羅針盤、こうしたものを涵養し卒業!
- ⑤[教員より]辛くなったら戻って来な。掛けそうなき仲間顔や鈴木の言葉を思い出し一歩進んでみな。そんなゼミを続けたい。

# Let's know RM!

"危機管理学部の学び"を学生視点で紹介します。

学生による

## 専門科目紹介

### 「企業研究・インターンシップ」

「企業研究・インターンシップ」の授業は少数グループに分かれて行い、上場企業の財務諸表やIRを分析し、競合他社との比較などから、業界全体を対象に研究していきます。また、就職活動で欠かせないマナー講座やキャリアデザインを学ぶことで、面接対策や自己分析、志望動機の作成・準備も行えます。

### いわき市役所のインターンシップに参加。

ここでは、東日本大震災の被害と復興状況を知り、職員の方や住民の方々が震災・復興に込める思いに触れることができました。そして、講義と現場の知見を持って計画・行動する重要性を学びました。この経験を、さらなる専門性の向上と課題解決による社会貢献に活かしていきたいと思っています。



危機管理学部3年 石田 智哉



インターンシップ研究発表会では、業界を代表する大手中堅・優良企業、地方自治体や公益財団法人などで5日間のインターンシップを体験した各学生が、その成果を報告。それぞれの話を聞き、他のインターンシップに類似参加した気持ちになりました。

## “危機管理”を見て聞いて知って!

### 公開講座「国際テロリズムの現状と市民の自己防衛」

講師/危機管理学部教授 安部川 元伸



秋葉原で起きた2008年の無差別殺傷事件は、世界で頻発する自動車テロの先駆けだった。2018年11月3日に行われた安部川教授の公開講座は、そんな衝撃的な言葉で始まりました。地域の方々等約70人が聴講した講義では、クイズを採り入れてイスラム教への理解を深めるとともに、東京五輪を控えて、テロから身を守るにはどうすれば良いかを考えさせられた90分でした。(危機管理学部:3年・大熊彩美)



### 3年連続「危機管理産業展」に参加



国内最大規模の「危機管理産業展2018」が2018年10月10日から12日まで、東京ビッグサイトで開かれ、危機管理学部は学部生の就職先の開拓等を目的に出展しました。同展への参加は学部創設以来3年連続で、学部カラーの赤を基調としたブースには、今年も延べ1,000人を超す来場者が訪れ、教職員に交じって学生たちも特色ある専門科目や授業の様子を紹介するなど大忙しでした。



## 教員の眼



読書を通じて  
「言葉」に出会おう。  
人と出会って  
「言葉」を贈ろう。

危機管理学部 教授 先崎 彰容

阿部:先崎先生は『違和感の正体』や『未完の西郷隆盛』など話題の論考を次々に発表していますが、私たち学生にとって本を読むことの大切さとは何ですか。

先崎:自分の「感情」をまとめ、「言葉」で表現する行為は、とても人間的な作業です。しかし、近年、君たちが多用するSNSは、絵文字だけで「感情」を伝える。人間的な作業をサボってしまっています。例えば、「悲しい」という気持ちを、一冊の本で表現することは、泣いた顔の絵文字で表現するのは随分違うでしょう?だから読書することで、多くの「言葉」に出会うことは、豊かな感情表現を学ぶことなのです。これだけ即応性の求められる現代社会では、自分の中にある「感情」を、ゆっくりと人に伝える努力も必要です。

阿部:私たち学部生に応援メッセージをお願いします。

先崎:真面目なことは良いことですが、もっと冒険心をもって、やんちゃになってください。大学の中に閉じこもらず、いろんな人と出会ってください。言葉にならないものを受け取ることができれば、それを言葉にする努力をしてみてください。



インタビュー  
危機管理学部3年 阿部 拓也



〈教授プロフィール〉

1975(昭和50)年、東京都生まれ。専門は近代日本思想史。本学部では「倫理学」や「文章表現」を担当。

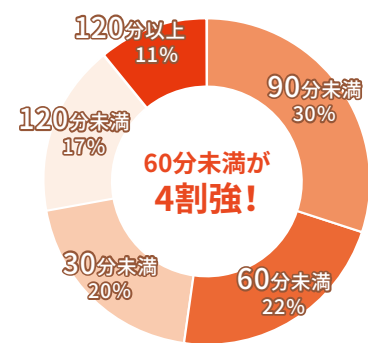
# Data of RM

データで見る  
危機管理学部の  
キャンパスライフ

危機管理学部の全学生にアンケートを実施。リアルデータから読み解ける学生生活をご紹介します。

## Q.1

通学時間(片道)はどのくらい?



約4割の学生が「60分未満」と答えていますが、ひとり暮らしや寮で生活している学生は全体の3割ほど。そのうち「30分未満」が約6割、「60分未満」が約3割と比較的キャンパス近郊で生活。ぜひ実家にも暮らしぶりを伝えてあげてください。

一方、実家や寮などから120分以上かけて通う学生も1割以上。通学時間を有効に使う!

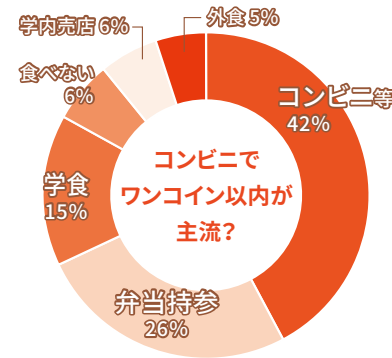


私は45分ぐらいかな。通学時間が短い分、もっと勉強しなくちゃ!反省

危機管理学部 3年 鈴木 里菜

## Q.2

ランチはどうしてる?



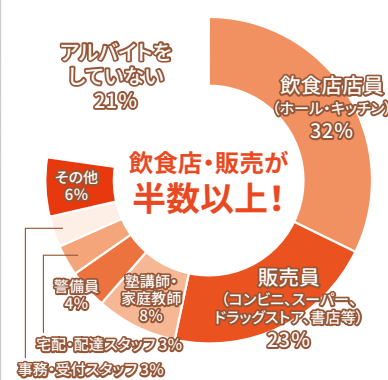
ランチはコンビニ等で買った物で手軽に済ませるとい学生が約4割。また、お弁当持参という学生が結構多かったのに対し、学食利用者が少なかったのは意外な結果でした。

ランチにかかる金額では「500円まで」が最も多く、「300円まで」「400円まで」とあわせて半数以上。ワンコインで食べられて、栄養バランスも良い学食は、さらにメニューがリニューアルされました。ぜひ行ってみてください。



## Q.3

アルバイト、何してる?



アルバイトをしているのは全体の約8割。その半分以上が飲食・販売系の店員ですが、「その他」ではアパレル、駅係員、学童保育補助スタッフ、スポーツジムのトレーナー、イベント派遣スタッフなど内容も様々でした。

バイト時間では「週5~10時間」が最も多く、週15時間以上という人も3割近く。うまく時間をやりくりして、授業の予習・復習はもちろん、趣味や余暇の時間もつくれるといいですね。



# \ Sancha / Career Support

桜門志誠塾の紹介 / 三軒茶屋キャンパス「就活出陣式」

## キャンパスに併設された選抜制小人数の就活塾

三軒茶屋キャンパスでは、就職難関企業突破を目指す学生のための就活特訓塾「桜門志誠塾」を開講しています。3年生向け講座では、就職支援情報サイト「リクナビ」を運営するリクルートキャリアと連携して、社会人準備のための知識・スキルを向上させています。



また1・2年生向けのベーシック講座では、現実社会を題材に「生きる力」を育む教育プログラムで定評のある探求社と連携し、リアルな社会を体験することで社会人基礎力と自己分析力を養成しています。

将来に向けて  
納得感ある  
進路選択へ!

株式会社リクルートキャリア  
リクナビ副編集長 伊藤 慎也 様



桜門志誠塾の講義は、インターンシップ参加、学生が苦手のエントリーシート対策などの就職準備をテーマとし、アウトプットを通じて内省を深めさせるアプローチが特長。きっかけの提供だけでなく、学修効果を追求した取り組みを行っています。

「就活のペースメーカーとして活用しています」



昨年11月には「日本大学校友OB・OG懇談会」も開催されました。



桜門志誠塾は、私の就職活動においてペースメーカーのような存在です。桜門志誠塾に参加することで、就職活動が必要となる自己分析や業界・企業研究に加え、筆記試験や面接対策をバランス良くこなすことができました。  
危機管理学部3年 川島 玲那

周りにライバルがいることでとても刺激になります。毎時間行っている業界研究や、ディスカッション、ESの作成など、頑張っていることを確認し合えるからこそ、モチベーションを保ち、自己研鑽を忘れずにいられます。  
スポーツ科学部3年 沖浦 光



「ライバルからの刺激が自己研鑽につながります」

# News & Topics of RM

## 日本大学体育大会「柔道競技会」で初優勝

日本大学の各学部がプライドをかけて競う「平成30年度日本大学体育大会」が開かれ、危機管理学部は「柔道競技会」で初優勝を飾り、学部創設3年目の快挙となりました。日大柔道部の合宿所(東京・練馬区)で開かれた「柔道競技会」(9月5日)には、本学部「柔道研究会」の強者5人が参加。これまで2度の出場では一つも勝てなかった悔しさを晴らすかのような快進撃を見せ、1回戦で法学部、2回戦では理工学部と、いずれも優勝経験のある強豪学部を下して見事栄冠をつかみ取りました。

また「バドミントン競技会女子の部」(8月23日)でも、1年生の舟木春華さんが牽引役となって第3位の好成績を収めました。新設の学部ながら、多くの競技に出場し、危機管理学部の存在感を示す大会となりました。



勝因は「粘りとチームワーク」と語る顧問の河本教授と5人の選手たち。



力を合わせてつかんだ銅メダルを手に記念撮影。

## いざ、就活へ! 出陣式を開催。

1期生が就職活動の本番を迎える三軒茶屋キャンパスでは、学生が満足度の高い就職を実現できるよう、3月の就活解禁を前に学生を鼓舞することを目的として、1月22日に「出陣式」を開催しました。

リクナビ副編集長による就職活動準備の秘訣の紹介、福田危機管理学部部長と小山スポーツ科学部部長の激励に続き、芸術学部の教員らによる和太鼓の演奏と応援リーダー部ディッパーズの演技の後、全員で校歌を斉唱。学生たちは内定獲得に向けた決意を新たにしました。



(上) 和太鼓の演奏 (右) チアリーダーによるアーチをくぐって就活へ。



# 三茶祭

## 2018レポート

SANCHA FESTIVAL 11.3 sat >>> 4 sun



**Talk Show**



日大OBでリオ五輪銀メダリストのケンブリッジ飛鳥さんと、棒高跳日本記録保持者であるスポーツ科学部の澤野大地専任講師によるアスリートトークショー。来場者からの質問に、ケンブリッジさんは笑顔で答えてくれました。



**Symposium**



**からあげ**



小谷ゼミ



アンサンブルサークルによる演奏



**LIVE**

ファンの熱い声援と共に盛り上がったアイドルグループのライブステージ



三茶祭を活気づけた美味しい模擬店



小向ゼミ

「子供とSNS」等ポスター発表



東急電鉄の協力による交通研究会の「制服・制帽を着て写真撮りませんか？」

オリンピックメダリストであるスポーツ科学部の西川教授による「親子体操教室・親子でストレッチアカデミー」は、多くの親子連れで盛況でした。



吉富特殊研究、自衛隊とコラボ展示



子供たちに人気だった「VRスポーツ体験 VR半端ないって!!」(スポーツ系企画)。



今しかできないこと!探検部展示



スポーツ科学部  
さんちゃん  
危機管理学部  
ちやーさん

三茶祭のマスコットキャラクター



日本指圧専門学校生による指圧体験もできた!

迫力満点のパフォーマンスを見せた応援リーダー部Go Dippers。演技後は観客のリフト体験も行いました。



緊急時に役立つ防災グッズ「パラボードプレレット」の作成体験コーナー(危機管理学企画)



**後夜祭**

後夜祭ではカラオケ大会、腕相撲大会を実施。

三茶祭実行委員会 委員長 高橋 航(スポーツ科学部2年)



今年の三茶祭のテーマは「3CHAO(サンチャオ)」。CHAOがスペイン語での挨拶として使われるように、三茶祭を通して学生や地域の方々とのコミュニケーションを深めたいと考え、様々な企画を多数実施しました。お陰様で多くの方々にご来場頂き、お楽しみ頂けたと思いますし、危機管理学部・スポーツ科学部それぞれの姿を少しでも知って頂けたら幸いです。

## 日本大学本部 海外留学プログラム

日本大学では、世界各国の大学等と交流を図り、そのネットワークを活用して、交換留学・海外研修などの機会を学生に提供しています。現在留学中の学生による現地レポートをご紹介します。

### すべてが刺激的な留学生生活を満喫中！

2018年の8月末から、私はアメリカのウェスタンミシガン大学 (WMU) に派遣留学しています。後学期の間、現地の学生と同じ空間で授業を受け、2019年4月末に帰国するプログラムで、社会学系、航空学、スペイン語、体育の計4科目を1学期間で履修します。

また授業以外でも、大学のサッカーチームに所属して週に5回ほど活動しているほか、友人と寮でゲームをしたり、一緒に外食しに行くこともあります。この留学の経験全てが刺激的で、とても充実した時間を過ごせています。

留学期間も残りわずかとなりましたが、帰国する時に成長した自分を大いに実感できるよう、ここでの日々を大切に過ごしたいと思っています。

危機管理学部3年 中島 直人



サッカーチームのメンバーと共に。



WMUのキャンパス正門。



広々としたキャンパス内。



様々な国の留学生たちと積極的に交流。

# Feel the World!

三軒茶屋キャンパスでは、グローバルな人材の育成のため、短期海外研修や派遣留学プログラムを積極的に推奨しています。

## 三軒茶屋キャンパス 第1回スポーツヨーロッパ研修旅行

三軒茶屋キャンパス独自のプログラムとして、ヨーロッパスポーツの今を知る海外研修旅行を実施。三軒茶屋キャンパスの学生総勢34名が2018年9月8日から2週間にわたってスイス・フランス・ドイツ・オランダを巡り、見聞を広めました。

### スポーツと生活の密着度を実感。

私が今回の海外研修で日本と最も違いを感じたことは、ヨーロッパの生活とスポーツのあり方です。まず、生活について何事も合理性を優先しているところ。電車は移動手段なので、電車の椅子は非常に質素で固いものといったことは一例ですが、最低限のものはあるけれど、質の向上は必要な個所だけに集約されている印象を受けました。

またスポーツのあり方については、スイスを訪れた際に、自国開催でないにもかかわらず街頭にオリンピックまでのカウントダウンを示している時計があったり、ドイツではサッカーチームのホームグラウンドが大学の敷地内にありました。さらに試合がある日は、朝から街中で地元のサッカーチームのユニフォーム姿の人を見かけ、レストランに行けば必ずと言っていいほどテレビで中継を流していました。こうした事実は事前に想定して今回の研修に臨んでいましたが、この違いを現地の生活の中で体験できたことは非常に得がたい経験となりました。そして、今後の自分自身の活動における視野を広げる良いきっかけになりました。

スポーツ科学部3年 飯田 海皓



サッカーフランス代表の合宿地CENTRE NATIONAL DU FOOTBALLを訪問。



左) フランス・シャモニーでモンブランを望む。(右) ドイツでブンデスリーガの試合を観戦し、本場の雰囲気堪能。



# SS SEMINAR

スポーツ科学部  
ゼミナール紹介

スポーツ医科学研究ゼミ

担当教員/布袋屋 浩 教授  
整形外科医(日本ゴルフツアー機構指定医師、元東京読売巨人軍チームドクター)



担当科目/スポーツ医学、スポーツ生理学、救急処置法、機能解剖学

## スポーツ医科学的観点からスポーツ外傷・障害の予防/早期復帰とパフォーマンスアップを目指す

スポーツにおいてケガや故障はつきものであり、競技レベルが上がるほど、また一生懸命練習するほどそのリスクは高くなります。布袋屋ゼミでは様々な競技を専門とした学生が所属しており、スポーツ医科学的観点からスポーツ外傷・障害の発生原因の究明を目的に、プロスポーツ選手からアマチュアまでの各競技レベル別のスポーツ傷害歴を調査したり、各種測定機器を利用したメディカルチェックを行ったりして、傷害予防や早期復帰に役立つための研究をしています。また、各種プロスポーツ選手の診療経験を応用し、テーピングやストレッチ、レーザーのツボ照射法などの介入実験により、血糖や血中乳酸値、筋硬度や疲労度などがどのように変化するのか多方面から測定評価し、アスリートのケガや故障の予防はもとより、疲労の早期回復やパフォーマンスアップに直結する、安心安全で効果的なリコンディショニング方法を追求しています。



# Let's know SS!

スポーツ科学部ならではの授業を紹介します。

### 競技スポーツ原論

スポーツ科学部 森丘 保典 教授



スポーツの起源と歴史の変遷、その文化的特性や社会に与える影響などについて理解し、これまでの自身のスポーツ観を省察することを通して、学際的・総合的な学問分野であるスポーツ科学を体系的に学ぶための基礎知識を身につけることを目的としています。

### バイオメカニクス演習

スポーツ科学部 本道 慎吾 専任講師



バイオメカニクスの基礎で得た知識を応用し、より実践的なスポーツの現場を想定した際の身体運動の仕組みについて、様々なバイオメカニクスの手法を用いて検証し、その方法論と算出されたデータの解釈についての議論を中心とした演習です。



**FENCING**  
フェンシング・エペ  
**馬場 晴菜**  
スポーツ科学部 3年

① 海外遠征先で美味しい物を探す ② ゼミナール ③ 次の日にちょっといい朝ごはんを食べに行く ④ 配られたカードで戦うしかない ⑤ もっと図書館を利用したい

■2017年:日本選手権 準優勝  
■2018年:ジャカルタ・アジア大会女子エペ団体銅メダル、日本選手権 3位

アジア競技大会  
銅メダル獲得!



**ARTISTIC SWIMMING**  
アーティスティックスイミング  
**塚本 真由**  
スポーツ科学部 3年

① 食べること。唯一の楽しみです ② コーティング演習 ③ 長風呂 ④ 全力 ⑤ 大学の行事に参加したい

■2018年:ジャカルタ・アジア大会 団体銀メダル

アジア競技大会  
銀メダル獲得!



**CYCLING**  
自転車  
**沢田 桂太郎**  
スポーツ科学部 3年

① カメラ ② ゼミナール ③ カメラを持ってふらっと出かける ④ 何事も楽しく! ⑤ 仲の良い部員たちと旅行に行く

■2017年:トラックワールドカップ チームパーシュート 銀メダル  
■2018年:アジア選手権トラック チームパーシュート 金メダル、ジャカルタ・アジア大会 チームパーシュート 銅メダル(予選出場)

アジア競技大会  
銅メダル獲得!



**TRACK & FIELD**  
走幅跳  
**橋岡 優輝**  
スポーツ科学部 2年

① 食べ物 ② 英語 ③ 音楽を聴いて寝る、美味しい物を食べる ④ チャレンジ精神 ⑤ 留学

■2017年:日本選手権 優勝  
■2018年:U-20世界選手権 金メダル、ジャカルタ・アジア大会 4位、日本選手権 優勝

U-20世界選手権  
金メダル獲得!



**SWIMMING**  
競泳・フリースタイル  
**山本 菜由佳**  
スポーツ科学部 1年

① サーフィン ② スポーツ実技 ③ タピオカを飲む ④ 常に笑顔 ⑤ 友達を増やす(笑)

■2018年:パンパシフィック水泳50m 8位、ジャカルタ・アジア大会 4×100mフリーリレー 金メダル(予選出場)、混合4×100mメドレーリレー 銀メダル(予選出場)

アジア競技大会  
金・銀メダル獲得!



**FREESTYLE SKIING**  
フリースタイルスキー・モーグル  
**住吉 輝紗良**  
スポーツ科学部 1年

① カフェに行くこと ② トレーニング学原論 ③ 湯船に浸かって音楽を聴く、温かい飲み物を飲みながらくつろぐ ④ 毎日を丁寧に過ごすこと、よく寝ること ⑤ 海外の遠征先でも活用できるように語学力を向上させたい

■2018年:ジュニア世界選手権モーグル 優勝、全日本選手権大会デュアルモーグル 優勝  
■2019年:ワールドカップ・レークプラシッド大会 6位



**SPORT CLIMBING**  
スポーツクライミング  
**本間 大晴**  
スポーツ科学部 1年

① スイーツ ② 競技スポーツ習得実習 ③ 温泉に行く、美味しい物を食べる ④ 試合で勝っている自分をイメージして練習に取り組んでいる ⑤ 英語を話せるようになりたい!

■2018年:アジアユース選手権リード 優勝、IFSCクラ イミング・ワールドカップ廈門5位、第73回国民体育大会ホルダリング 優勝・リード 優勝、第21回JOC ジュニアオリンピック大会リード 優勝



**SWIMMING**  
競泳・バタフライ  
**長谷川 涼香**  
スポーツ科学部 1年

① 嵐のDVDを見る ② スポーツ観戦演習 ③ 練習が良かった時には自分にご褒美(スイーツなど)! ④ 努力は必ず実る ⑤ 栄養学の勉強

■2017年:日本選手権200m 優勝  
■2018年:パンパシフィック水泳200m 4位、ジャカルタ・アジア大会200m 銅メダル

アジア競技大会  
銅メダル獲得!



**RIFLE SHOOTING**  
ライフル射撃  
**島田 敦**  
スポーツ科学部 2年

① 本と漫画を読むこと ② スポーツ心理学の基礎 ③ 寝ること ④ 為せば成る為さねば成らぬ 何事も成らぬは人の為さぬなりけり ⑤ 旅行

■2017年:ISSFジュニアワールドカップ(ズール)10mエアライフル団体 金メダル、ワールドカップ・ニューデリー 10mエアライフル個人 3位・ミックスチーム 2位、国際エアガン・ミュンヘン10mエアライフル 優勝  
■2018年:ジャカルタ・アジア大会エアライフル日本代表

**PICKUP**  
ピックアップ・アスリート

**ATHLETE**

世界の舞台で戦うトップアスリートを多数輩出してきた日本大学。そんな先輩たちに続き、現在数々の国際大会で活躍している現役学生を紹介します。

- ① いま興味があること
- ② 好きな科目
- ③ 気分転換にすること
- ④ 好きな言葉/心掛けていること
- ⑤ 競技以外でやってみたいこと

■ 主な競技成績

※競技成績は2019年2月末現在

SSアスリートおすすめ  
**三茶の学食 人気メニュー**

今日の三茶井は、炒り卵と野菜の「変わり親子丼」。次はどんな丼なのか楽しみです。

スポーツ科学部2年 橋岡優輝

**本日のシェフランチ 500円**  
こだわりの日替りメイン料理は「美味しくボリュームもあるから大満足」とアスリートにも人気。(写真は若鶏のトマトソース煮)

**味噌ラーメン 350円**  
麺類メニューの絶対的1番人気はコレ!このクオリティをこの値段で味わえるなんて驚き!!

**三茶丼/下馬丼 各400円**  
2~3日ごとに内容が変わる2種類のオリジナル丼が大人気。「野菜をしっかり摂って欲しいから」という学食シェフの工夫が詰まった逸品です。

昨秋、メニューが一新された学生食堂。スポーツ科学部の学生たちに聞いた一押しメニューをご紹介します!

**FOOTBALL サッカー部**

初心者から全国大会出場者までが集うサッカー部は、本気でサッカーをやることはもちろん、「楽しむ」ことも重視。週3~4日の練習等に加え、地元行事への参加や大学イベントの手伝いなど、サッカー以外の活動も積極的に行っています。

顧問/山本大 ◆主将/横澤 太一(2年)  
◆部員/58名(1年生21名、2年生16名、3年生21名)  
◆2018年度成績/東京都社会人4部リーグ優勝(10勝0敗)  
◆日本大学体育大会準優勝(決勝PK負け)・スポーツマネジメンプレミア草津大会準優勝(3年生チーム)

**TRACK & FIELD 陸上競技部**

陸上競技部では、初心者から全国大会入賞者まで幅広いレベルの様々な種目の選手が活動しています。週3日(内グラウンド1日を含む)の活動は全体で行い、残りは個人で行っています。

顧問/本道 慎吾 ◆主将/半山 華鈴(2年)  
◆部員/30名(1年生11名、2年生9名、3年生10名)  
◆日本大学体育大会 男子3位 女子優勝

**Club of SS**

スポーツ科学部  
体育会運動部の紹介

陸上・走幅跳日本記録保持者

# 森長 正樹 × 澤野 大地

陸上・棒高跳日本記録保持者



特別企画  
日本記録保持者対談

全国の大学の中でも、スポーツの日本記録保持者が二人も教鞭を執っているのはスポーツ科学部だけではないだろうか。走幅跳の森長正樹教授と、棒高跳の現役ジャンパーでもある澤野大地専任講師。今日まで永きにわたり破られていない自身の日本記録について、そして指導者の立場で学生たちに思うことなどを語りあってもらった。

ていると感じます。今の選手は私の頃よりスピードや基礎体力が上がっているのに、記録が伸びていないというのとても残念ですね。

澤野：私の場合、最初に出した日本記録は2003年の5m75cmですが、そこから世界で戦いメダルを獲るためにどうすればいいかというところで、6m00cmという数字を目指してやってきました。翌年に5m80cm、2005年には5m83cmまで来ましたが、その時は私も完全に通過点だと思っていたので、何cmでも良かった。たまたまその試合に出た外国人選手の持ち記録が5m82cmだったので、「1cm勝つからね」と言われて跳んだ5m83cmが日本記録なんです。それからもう14年も経ってしまいました。その間、記録を破る人は現れず自分自身も超えられないというのは、悔しい結果でもあり、悲しい思いもありますね。ただいつかは誰かが私たちの日本記録を超えていくでしょう、超えてほしいですね。

森長：私はもう完全に指導者なので、ぜひ自分の指導した選手に超えてもらいたいし、超えさせないといけないという思いを非常に強く持っています。昨年から指導している本学部の橋岡優輝選手はこれまで順調にきています。彼には日本記録を大幅に塗り替えて、私が目指していた8m50cmくらいは跳んでほしいと思っています。

澤野：私も現役選手でありながら指導者でもあるので、自分が教えた選手に超えてもらいたいという思いはあります。今、指導している本学部の江島雅紀選手には、今後の日本の棒高跳界を引っ張っていく存在になってほしいので、トレーニングはもうちゃん、試合の戦い方や競技に対する考え方も、いろんなことをどんどん伝えていって、早い段階で私の記録を抜いてもらいたいですね。

ではアスリートとしての理想像とはどんなものですか。

森長：今はコーチや指導者がいてチームとして選手をサポートしながら育てていくのが主流ですが、本当のアスリートというのは例

「アスリートは強ければいい」ではない



教授 森長 正樹

日本大学大学院文学研究科教育学専攻修士課程修了。文理学部在学中に走幅跳で現日本記録(8m25cm)樹立。バルセロナ五輪、シドニー五輪出場。

えはトレーニング一つでも、その感覚とかいろんなもので自らを即座に客観的に判断できる。自分で何が問題なのかを知り、解決方法を見い出して実践していくというように、自分一人で競技がきちんとできることがアスリートの理想ですね。

さらに、競技の場を離れた時の人間性というか、社会に対してきちんとした行動ができることも必要。ただ強ければいいのではなく、一社会人として社会に踏み出した時、いろんなことに思いやりや気配りができ、周りからも評価してもらえる。それが本当のアスリート像であり、私の考える一番ですね。

澤野：私もほぼ同じですが、まだ現役を続けている上で、自分で自らをマネージメントし、自分でコーチとなって、自分の体と相談しながらトレーニングメニューを決めたり、動き

目標に向かって努力すること、その先に記録がある。

を研究したりするわけです。それは、スポーツ科学部で勉強しているPDC Aサイクルや「反省的実践家」ということを自己体現しているのだと思えますが、アスリート自身が立てて、しっかり考えながら組み立ててやっていくことが必要だと思います。また、アスリートはいろんな人の目標になってほしい。特に子どもたちの夢であってほしい。そのためには周囲の人の感謝だったり、立ち居振る舞いだったり、そういうことも進んでできるようなアスリートが理想です。結局、本人の結果にも繋がってくると思います。それでは最後に、学生たちや本学部を志望する高校生たちにメッセージをお願いします。



月刊陸上競技

森長：スポーツは勉強と違い、努力すれば確実に結果が出る。これは限りませんが、大切なのは、実現可能な目標を立て、計画を立て、それに対して努力することだと思います。本学部には、そうしたことを実際にやってきました。成功も失敗も経験している教員が多くいますから、様々な話を聞いて学び、いろんなことに対応できるように努めたいと思います。

澤野：私も、「自分がどんな選手になりたいか」という結果を出したいのかをしっかりと考えたい。そういうことを伝えたい。そこを考えると、それを考えながら生活して努力すること、結果に近づけるのだと思います。

森長：そういう意味では、「記録」というのは、普段の努力の成果だと思います。目標に対してどれだけ自分が頑張ってきたのか、その結果が「記録」として証明されるのだと思います。

澤野：あと一番望むのは、せっかくこの学部に来たから、人の繋がりを大切にしているというコミュニケーションしながら得たことを自分の競技に活かしてほしいということ。競技スポーツ実習の授業などは、各種目の人たちと直接的に話すことができるわけですから、そこで横の繋がりを作って、自分自身に刺激を与えてほしいですね。今日はありがとうございました。



専任講師 澤野 大地

日本大学大学院文学研究科教育学専攻修士課程修了。2003年から3年連続で棒高跳日本記録を更新(5m83cm)。アテネ、北京五輪に出場し3度目のリオ五輪で7位入賞。日本オリンピック委員会理事。

「日本記録は、完全に通過点だった」

澤野：森長先生が走幅跳で8m25cmの日本記録を出されたのは1992年のことなので、もう27年前になりますね。

森長：当時、カール・ルイスやマイク・パウエルをはじめ、すでに9m00cmを目指す選手たちが数名いました。その頃の私は8m10cmの日本記録を持っていて、次の目標は27フィート(約8m25cm)でしたが、世界で戦うには28フィート(約8m50cm)以上を跳ぶことが必要でした。大学1年の時から海外で練習をしていた私は、そこで彼らがトレーニングをしているのを見て、追いつき追い越すためにはどう跳んだらいいのか必死でした。だから8m25cmが出た時は嬉しくもありましたが、もっと先を狙っていたので通過点に過ぎませんでした。結果的に8m50cmに届かず終わりましたが、澤野：その記録が今も残っているということについては？



©FUJITSU SPORTS/NANO Association

森長：気持的には、長く自分の記録が残っているのはいいかもしれませんが、指導者の立場からすれば、日本のレベルが相当停滞しているように感じています。

保護者の皆様へ

2016年4月にスタートいたしましたスポーツ科学部も2019年度で4年目となり、いよいよ4年生まで揃う完成年度を迎えます。保護者の皆様を含め様々な方の支援によって学生たちは生き生きと学生生活を送り、日々成長している姿を見て取ることができます。今後も「反省的実践家」の養成を念頭においた教育活動に邁進いたします。

スポーツ科学部長 教授 小山 裕三

